



News Letter

No.40

一般社団法人日本老年歯科医学会 会報

2020年6月30日発行

【本号のトピックス】

新理事長挨拶／本会役員が改選／第31回学術大会(Web開催)のお知らせ／
研究倫理の啓発⑩(最終回)／新規 専門医認定者の声／学会だより

一般社団法人日本老年歯科医学会 新理事長挨拶

一般社団法人日本老年歯科医学会理事長 水口俊介

このたび理事長を務めさせていただきます水口です。簡単ではございますが以下に所信を述べさせていただきます。

「口腔機能低下症」が保険収載されましたが、関連のエビデンスをさらに整備する必要があります。また「認知症」「歯科訪問診療」など、難しいテーマがございます。エビデンスの少ない状態で高齢者歯科医療、在宅歯科診療に臨むことは丸腰で戦うようなものです。多くの武器、アイテムを本学会から発信してゆくようにしたいと思います。

本学会の認定医専門医制度は充実しています。そして本学会の専門医制度は、議論の途中ではありますが総合歯科診療専門医の中に入る可能性があります。し

かし「総合歯科診療専門医」は老年歯科専門医といっても過言ではありません。本学会の活発な活動によって「総合歯科診療専門医」＝「老年歯科診療専門医」にしてゆくではありませんか。

本学会の支部組織は1都道府県一組織で、地域によっては県歯科医師会と綿密な連携を取り、学会支部としての活動を行っています。今後高齢者歯科医療に関するさまざまな変革や新しい情報がありますが、それらを確実に伝え歯科医師会や歯科衛生士会等とともに地域の高齢者歯科医療にこれまで以上に貢献します。

これ以外にも多くのやるべきことがございますが、なにとぞよろしくご支援のほどお願い申し上げます。

2020年度定時社員総会が開催されました

今年度はCOVID-19感染拡大の影響により、初めてWebによる開催となりました。全国的に国内移動も控えられている状況で、Webを通じて全国の代議員の皆様とお会いできる機会ともなりました。COVID-19の難局も力を合わせて乗り越えていきましょう！



開会の辞(那須郁夫先生)



理事長挨拶(佐藤裕二先生)



新理事長挨拶(水口俊介先生)



2021年(第32回)学術大会大会長
(河相安彦先生)



総会の様子



2022年(第33回)学術大会大会長
(小野高裕先生)

本会役員が改選されました

2018～2019 年度 理事・監事・幹事の皆様、ありがとうございました。2020～2021 年度 理事・監事・幹事の皆様、よろしくお願いいたします。



第31回学術大会はWeb開催となりました

第31回学術大会大会長 水口俊介
(東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野)

<http://web.apollon.nta.co.jp/gero31/>

 Twitter: #JSG20

緊急事態宣言が解除され「やった!」と思ったとたん、新規感染者数が増え東京アラートの発令となりました。その後新規感染者数が増えたり減ったりという状況が続いていますが、街には大勢の人が戻っております。社会はポストコロナではなくウィズコロナとなり、この状況が、決定的な治療薬やワクチンが開発されるまでは1年近く続くのでは、という雰囲気になって参りました。ウィズコロナ下では3密を避けなければならず、従来型の集会は会場定員の50%までの入場制限が外れない可能性があります。そうしますと集会型の大会では参加者数が少なくなり、学会の本来の目的を達しえないと考えました。

たいへん残念でくやしい限りですが、本学術大会をWeb開催とさせていただくことを決断いたしました。

しかしながら、コロナの影響もあってか、Web開催のさまざまなツールやアプリはつい1カ月前よりたいへんな進歩を遂げています。この決断をしたのもそのパワーを確認し、たいへん有効に情報交換ができるであろうということを確認したからであります。学会設立30周年記念祝賀会はやむなく中止といたしますが、記念式典はWeb上での開催を計画中です。課題口演、優秀ポスター審査、認定医ポスター審査、摂食機能療法専門歯科医師の審査や研修も実施予定です。開催の詳細な仕様は順次ホームページに掲載いたしますので、注意していただきます。

老年歯科に関するさまざまな事項はコロナ禍においても待つてはくれません。われわれは何としてもわれわれが持つ情報や意思を遅滞なく、そして可能な限り多くの人に伝達しなければなりません。ぜひ日本の、いや世界の老年歯科のためにもご参加いただきたいと思います。



大会HPへのQRコード

研究倫理の啓発⑩ ～利益相反を開示する意義について～

2018～2019年度 倫理委員会副委員長 大野友久, 委員長 竹島 浩

本学会において利益相反とは、研究者個人に公的利益と私的利益が同時に発生すること、としております。公的利益のための社会的責務と、個人が得る金銭などの私的利益の間に相反する状態があることを利益相反状態といいます。研究資金などをもらって研究を実施している場合、その提供元への配慮が研究結果の判断に「影響を与える可能性」がある状態、と考えてよいでしょう。某降圧剤に関する研究不正のイメージがあり、利益相反にはマイナスイメージがありますよね。しかし、よく読めばわかると思いますが、あくまで「影響を与える可能性」であり、利益相反状態自体が悪いものではありません。利益相反の結果、研究結果に余計な影響が生じてしまうこと、が問題なのです。意義として大事なことは、利益相反を開示することで研究者が研究結果に対して公正な判断を行うことにつなげ、また第三者が研究結果を解釈する際の判断材料にできることです。

研究倫理啓発の連載は今回で終了です。十分な研究倫理に基づいた良質な研究が本学会から発表され続けることを願います。

- ・医学研究の利益相反は公的利益と私的利益が競合・相反すること
- ・利益相反状態は悪いことではない
- ・利益相反状態が研究結果に余計な影響を与えることが問題
- ・利益相反開示の意義は余計な影響をできる限り防ぐこと

新規 専門医認定者の声

井口達也先生

(東京歯科大学口腔健康科学講座
摂食嚥下リハビリテーション研究室)

私は総合病院および大学勤務を経て、今現在大学に臨床講師として籍を置きながら、摂食嚥下障害を含めた高齢者歯科治療を中心に外来や訪問診療に携わっています。専門医を取得するきっかけとしては、診療を行っていくうえで、興味のある分野をより突き詰めたいと思ったからです。試験では全身管理を含めた幅広い内容が出題され、再度学ぶ良い機会となりました。今後も学会等に参加し、知識をより深めながら一人ひとりの患者に携わっていきたいと考えています。



長谷剛志先生

(公立能登総合病院歯科口腔外科)

これまで、いくつかの学会専門医や指導医資格を取得してきましたが、本学会の専門医試験ほど出題のフォーカスを絞りづらかったのは初めてです。受験にいたるまでの症例提出、学会発表、論文投稿、規定単位の修得もさることながら、オールラウンドかつ横断的な問題が多い印象を受けました。そして、久しぶりの試験勉強は、自分の無知さ加減を知るいい機会でもありました。正直、年を重ねると試験に落ちる恥じらいから、敬遠したい気持ちはありますが、それを恐れ、勝負しない(受験しない)のは一生の愚かであると自分に言い聞かせました。自己研鑽と学問に対する飽くなき探究をモットーに能登地域の高齢者歯科医療にかかわっていきたいと思います。



前川賢治先生

(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
インプラント再生補綴学分野)

私のこれまでの臨床経歴は、大学病院における補綴治療、インプラント治療や口腔顔面痛治療など、比較的健康な高齢者を対象としたものが中心でした。しかし、3年前から精神科病院での歯科治療に携わる機会をいただき、認知症、摂食嚥下障害、多剤服用の影響などが複雑化して対応が困難となる入院患者さんを眼前にしたことで、高度な老年歯科の知識の重要性を実感し、専門医としての素養を身につけたく勉強、経験を積んできました。試験の出題は広範囲にわたるため、老年医学、歯学に関する知識の整理、修得と勉強の過程で自身が得たものは貴重です。高齢化の進行により、対応に苦慮する機会はますます増加すると推測し、さらなる研鑽の重要性を感じています。



森 隆浩先生

(広島大学大学院医系科学研究科先端歯科補綴学研究室)

私は2011年に広島大学大学院先端歯科補綴学研究室に入局し、補綴治療に加え摂食嚥下評価や栄養管理についても多職種と連携しながら実践しています。症例報告書は顎補綴と栄養指導を行った内容としました。筆記試験は認知症に関連した問題がやや多かった印象です。小学生の頃から数え切れないほど筆記試験を受けてきましたが、人生最後の筆記試験かもしれないと適度な緊張感をもって挑みました。今後、老年歯科専門医として自分どのような社会貢献ができるのか考えたいと思います。



学会だより

「老年歯科医学」別冊電子ジャーナルのご案内

最新掲載情報

- ・診療参加型臨床実習マニュアル「移乗」
- ・診療参加型臨床実習マニュアル「嚥下内視鏡検査」
- ・老年歯科医学 教育基準
- ・多職種連携のための略語・業界用語一覧
- ・認定医審査症例レポート

「老年歯科医学」
別冊電子ジャーナルへのQRコード



書籍紹介

本学会がこれまでに発行もしくは編集した書籍の一部をご紹介します。

『2019 年度版 介護保険施設等入所者の口腔衛生管理マニュアル』



2010 年日本老年歯科医学会から、介護保険における算定項目に口腔機能維持管理加算が収載されたことを受けて、口腔機能維持管理マニュアルが発刊されました。施設入所者を対象とした口腔衛生・機能管理に関する、当時画期的なマニュアルであり、その内容もエビデンスに基づいた、当時では最新の情報が盛り込まれています。また、実際の介護保険での算定のための実務内容も掲載されています。それから約 10 年が経過し、現状の介護保険制度や介護保険施設の運営状況に合わせ、2019 年に改訂版『介護保険施設等入所者の口腔衛生管理マニュアル』として発刊されました。2010 年度版を踏襲し、内容は科学的に口腔管理を解説しています。実際の内容は口腔へのスクリーニングから、アセスメントを行い、対象者をリスク別に割り付けし、それぞれに対してケアプランを作成し、必要なケア方法や対応法を具体的、詳細に解説していま

す。介護保険施設のみならず病院あるいは在宅ケアなど、さまざまな医療・介護現場においてもバイブルとなるマニュアルであり、多くの医療・介護関係者に活用してもらえることを祈念するマニュアルです。

(糸田昌隆)

『認知症の人への 歯科治療ガイドライン』



認知症高齢者の数が増加の一途をたどるなか、切れ目ない歯科医療サービスの提供が求められています。このガイドラインは、認知症の人へのう蝕治療、外科治療に加え、口腔衛生管理、緩和ケアにいたるまで網羅的にクリニカル・クエスチョンを取り上げています。また、前半では認知症概要やアセスメントについて解説されており、認知症の基礎から学べる内容となっています。これから認知症について学びたい人に必携の 1 冊です。

(小原由紀)

本学会監修『かかりつけ歯科医のための 口腔機能低下症入門』が刊行されました！



監修：一般社団法人日本老年歯科医学会
編著：佐藤裕二（昭和大学歯学部高齢者歯科学講座）
水口俊介（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野）
櫻井 薫（東京歯科大学 名誉教授）
B5 判・124 頁・オールカラー、定価 6,600 円
(本体 6,000 円+税)

編集後記

水口俊介理事長のもと、今期の広報委員会は河相委員長、糸田副委員長、織田委員、小原委員、貴島委員、伊藤委員と飯田の7名にて活動させていただきます。ニュースレターや学会HP以外に、SNSを用いた広報活動を今期も継続して進めていきます。会員の皆様による各SNSでのフォローを期待しております。
(飯田 崇)

発行人 水口俊介
編集 (一社)日本老年歯科医学会広報委員会
事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9
駒込TSビル (一財)口腔保健協会内
電話 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341
E-mail gakkai30@kokuhoken.or.jp